

# 国語科学習指導案

平成 19 年 9 月 19 日 (水) 5 校時  
沖縄市立泡瀬小学校 4 年 1 組  
男子 19 名 女子 21 名 計 40 名  
授業者 金子 雅 仁

## 1 単元名

本と友達になろう

## 2 単元目標

- ◎情景描写や人物描写に気をつける読み方を知り、作品をより楽しんで感想を深める。
- ◎本の探し方を知り、自分で探した本のおもしろさの中心を明確にしてカードに書き、友達と紹介し合う。

## 3 単元設定の理由

### (1) 単元について

中学年になると、外界から吸収するものと外界へと発信するものは、低学年のころに比べて増えてくる。このころは、言語能力が最も向上する時期だといわれている。物語を読み、その世界へ没入し、その中で躍動する心の動きが、最も盛んな時期である。

「白いぼうし」はファンタジーの要素を多くもち、においや色に関する表現が豊かな作品である。児童は、想像力を働かせて、このファンタジーの世界を味わうことだろう。

また、外界への興味が増すにつれて、主体的な読書を行う児童も多くなる。「白いぼうし」との出会いから、シリーズ作品のおもしろさに気づき、読書生活が広がることも期待できる。

本単元は、二つの教材、三つの学習活動から成っている。まず、全体で同じ物語を読む。続いて自分で探して読む。そして最後は「おすすめの本」を紹介する。三段階の作業が有機的に結び付けられた単元である。

### (2) 児童について

アンケートの結果から、国語の授業が好きと答えた児童は 20 名と、学級の半数であったが、物語を読むことは好きと答えた児童は 32 名と、本を読むことは好きなようである。本学級の総貸出冊数は 8 月現在 2,456 冊で、一人平均読書冊数は、63 冊 (年間の目標読書冊数が 90 冊) であるから、ほぼ、良好な読書活動がなされていると思われる。しかし、読書量に個人差があるという課題もある。分類別に見てみると、文学が全体の 56 %、絵本が 15 %、芸術が 8 %、その他 21 % と、読む本にかなりの偏りがある。また、読んだ本を友達に紹介した経験のある児童は 23 名いた。

パソコンに関する質問では、全員がパソコンを活用した授業は好きだと答えている。パソコン操作能力については、全員が文字打ち、写真やイラストの貼り付け、印刷、データの保存をすることができる。これまでに、「名刺作り」や「運動会招待状」の作成を行ってきた。

### (3) 指導について

読むことが次の読み物を探すことに発展し、それがさらに、他の人に伝えることへと発展する。三つの学習の比重をどのようにするかは必ずしも一定でなくてもよいが、単元名「本と友達になろう」から考えると、作品紹介が楽しく積極的なものになるような学習活動を心がけたい。

そこで、「おすすめの本」カード作りをする場において、パソコンを活用したカード作りをさせ、児童の本への興味が広がっていくような学習活動にしていきたい。

## 4 単元計画 (16時間)

次・時	目標・学習活動	評価方法
1 1	■学習の見通しをもつ。 ①難語句や新出漢字の読み方を確認しながら、「白いぼうし」を通読する。	【関】 物語の世界に興味をもち、初発の感想をもっている。 [感想・ノート]

2	■場面ごとに読み進める。	【読】	松井さんが夏みかんを大切に思っていること、松井さんの男の子のことを思いやる心などから、松井さんの人柄を自分なりに考えている。 [ノート]
2	①夏みかんにこめられた登場人物の思いを、言動に着目して読み取る。		
3	①松井さんの人柄を、白い帽子、たけのたけお君とのかかわり方から読み取る。		
4	①女の子の様子と松井さんの様子を読み取る。	【読】	ちょうが飛んでいる様子を思い浮かべて、音読している。 [観察]
5	①たくさんの白いちょうが飛んでいる様子を読み取り、聞こえてきた小さな声について話し合う。	【読】	夏みかんと白い帽子のイメージをもっている。 [発言・ノート]
6	①言葉や表現に気をつけて読み、自分の考えをまとめて発表する。 ②まとめの感想をもち、交流する。 ③物語を読んでいくときに気をつけていくことをまとめる。	【読】	物語の感想を書き、友達と交流して、受け止め方の違いを見つけている。 [発言]
3	■本と友達になる。	【関】	いろいろな本を読もうとし、また、「おすすめの本」カード集を作って友達に本を紹介しようとしている。 [観察]
7	①「おすすめの本」カード集を作るという学習の見通しをもつ。		
8・9	①図書館での本の探し方を理解し、読みたい本を探す。	【読】	本の探し方を理解し、友達に紹介したい本を探している。 [観察]
10・11	①活動のあらましを知り、紹介したい本を選ぶ。 ②カードの作り方を知り、紹介する内容を考える。	【読】	紹介文を書く目的で、必要なことや伝えたいことを考えながら読んでいる。 [観察]
12・13	①下書きをする。 ②推敲する。 ③挿絵やレイアウトも工夫しながら清書をする。 【本時】	【書】	知らせたいことを集めて整理している。 [ノート]
14・15	①カードを互いに読み合い、進んで読みたい本を決めて読む。 ②読書後、短い感想を書いたり話したりして交流し合う。	【書】	伝えたい中心をはっきりさせて紹介文を作成している。 [パソコン]
16	①「4年1組おすすめの本」カード集を作り、学習のまとめをする。	【関】	友達のカードの良い点を発表し、次の活動への意欲をもっている。 [発言・観察]

## 5 本時の授業展開 (13/16)

### (1) 本時の目標

- ・パソコンを活用して、紹介したい本と、その理由をはっきりさせてカードを作成することができる。

### (2) 授業仮説

- ・「おすすめの本」カードの清書する場において、コンピュータを活用し、レイアウトを工夫させることにより、紹介したい本について分かりやすくまとめることができるであろう。

### (3) 準備するもの

- ・ワークシート

(4) 展開

過程	学習活動	教師の支援・留意点	情報機器の活用	評価
導入	○本時のめあてを確認する。 ・パソコンを使って「めあて」を確認する。		◆パソコン ・パワーポイント	
展開	○前時までに作成した「おすすめの本」カードの下書きをもとに、カード作成を行う。  ・ジャストスマイル（発表名人）を使ってカードを作成する。  ・紹介したい本の表紙を貼り付ける。  ・紹介文を打つ。  ○作成できたカードをプリントアウトする。  ○作成したカードのデータを保存する。	・パソコン操作などでわからないところがあった場合は、友達に聞き、友達同士で解決できない場合は教師に聞くようにさせる。  ・完成した児童の作品をいくつか紹介し、イメージを膨らませる。  ・カラー印刷であることを確認させる。  ・印刷した作品は、移動掲示板に掲示。また、OHCを使って紹介する。  ・未完成の児童も保存させる。	◆パソコン ・ジャストスマイル（発表名人） ・スカイメニュー    ◆プリンター  ◆OHC ◆移動掲示板 ◆液晶プロジェクター	・カード作成に意欲的に取り組んでいるか。 【観察】  ・レイアウトを工夫して、紹介したい本について分かりやすくまとめることができたか。 【観察・プリント】
まとめ	○本時の学習のまとめをする。 ・完成作品の紹介をする。	・発表者には作品への思いを語らせ、聞き手には作品から受ける感想を発表させ、本への興味が広がっていくようにする。	◆パソコン ・スカイメニュー	

6 評価

- ・コンピュータを活用し、レイアウトを工夫することにより、紹介したい本について分かりやすくまとめることができたか。

7 成果と課題

【成果】

- ・パソコンを活用したことで、意欲的に学習することができた。
- ・発表名人を活用したことにより、完成したカードが個性あふれるすばらしい作品になった。
- ・友達の完成したカードを見て、積極的に本を借りていた。
- ・パソコン操作の能力が向上した。

【課題】

- ・コンピュータ活用の時間確保が難しい。（パソコン室の利用時間が週1回のため）

# 「おすすめの本」カード

～こんなことを書こう～

書名と作者名・筆者名

本のしゅるい  
(物語、伝記、詩など)

本の絵(写真)

しょうかいしたい理由と、本の内容  
やよびかけの言葉・クイズなど

「私がこの本をしょうかいしたい理由は、～だからです。この物語(本)の内容は～です。みなさんも、ぜひ読んでみてください。きっと、楽しいと思います。」

しょうかい者の名前

